

ぼうさいこくたい2023-神奈川の関東大震災から100年の教訓を未来につなぐ-の振り返り

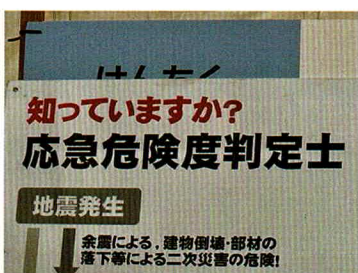
防災・災害対策委員会 渡邊 聖子・深谷 美登里

9月17日18日の2日間、横浜国立大学キャンパス内にて県内初となる国内最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい2023」が開催されました。内閣府によると、来場者数は1万6千人を記録し、過去最多との事。関心の高まりが伺えます。

我々のブースは来場者が多く通る屋外だった事もあり、一時は順番待ちが出るほど多くの方に足を止めていただきました。



出展内容は、耐震模型実験を通して耐震補強の大切さを知っていただく事、また万が一震災が起きた際に



応急危険度判定により判定された建物の判定結果の見分け方、注意事項などのご説明です。

まず初めに補強されていない模型を揺らして建物の脆さを体験いただいた後、来場者の方々も交えて補強を行います。再度模型を揺らしていただく事で違いを感じ、耐震補強の大切さを理解していただきます。



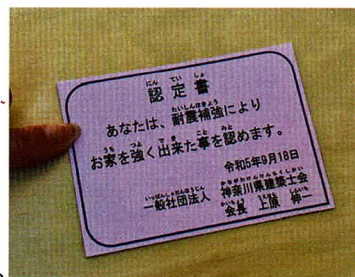
体験型でしたのでお子様から大人の方まで興味を示し楽しんで行っていただけたようです。



体験を通して今までそれほど関心を持っていなかったご自身のお住まいにも関心を持たれ、ご質問をされる方も多く見受けられました。

また、2日目には認定書を作成し、体験して頂いたにお配りするなどの演出もあり、より楽しく体験いただけたかと思えます。

会長自ら認定書をお渡しいただく場面もあり、来場の方々は勿論の事、我々も楽しんで活動出来たかと思えます。



最高気温35℃という炎天下の中、各委員会の皆様、事務局の皆様にご協力いただき無事に終了することが出来ました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。



ブースには2日間で延べ500人以上の方に立ち寄っていただき、アンケートにも135名にご協力・ご回答いただくことができました。災害に備える大切さを多くの方に知っていただく良いイベントとなりました。

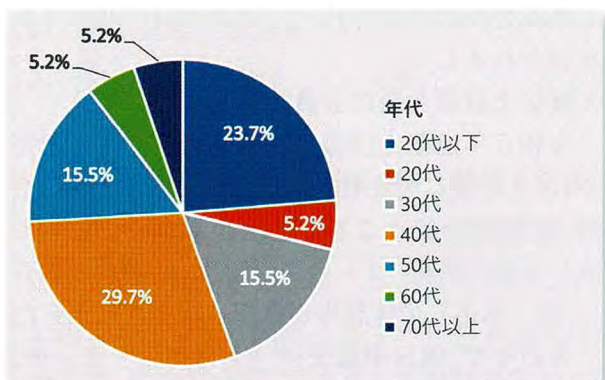
(渡邊)

アンケート集計結果

耐震模型実験を体験されたお子様にも積極的に声をかけ、2日間で延べ135名の方々からご回答いただきました。

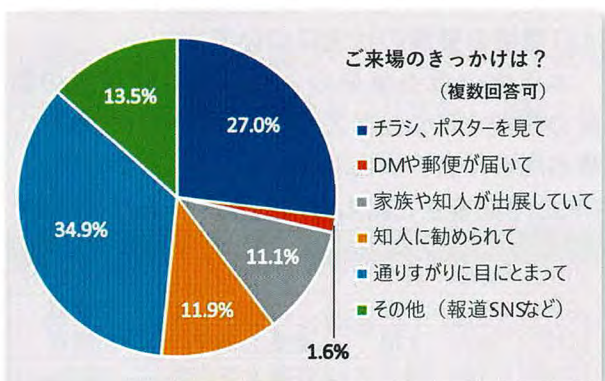
●Q：年代

40代が最も多く、次いで20代以下、30代と50代が同率で続きます。比較的若い世代の出展者(参加者)や親子連れがブースに立ち寄ってくれたことによるものと思われます。回答分布とは必ずしも一致しませんが、実際には非常に幅広く、あらゆる世代が来場されていたように感じました。



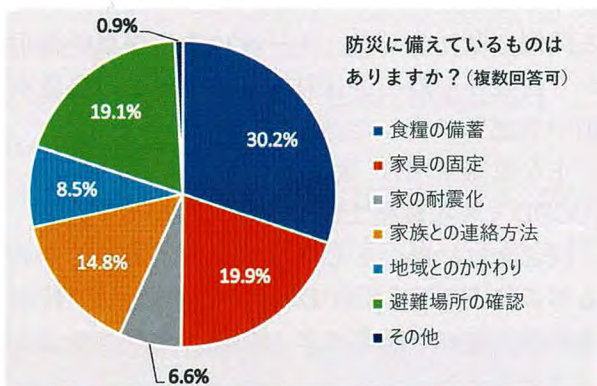
●Q：来場のきっかけ

最多の『通りすがりに目にとまった』以外の回答については「ぼうさいこくたい」そのものへの来場と、我々のブースへの来場、どちらも含んだ回答になっていると思われます。きっかけとしては、『チラシやポスターを見た』という回答が多く、『知人に勧められて』、『知人・友人が出展している』という回答も多くみられました。現役の建築学生さんが1日目に立ち寄り耐震模型実験を体験後、翌日には後輩を連れて再訪してくれ、机上の学びを体感できたと喜んでくれたことが、個人的にはとても印象的でした。



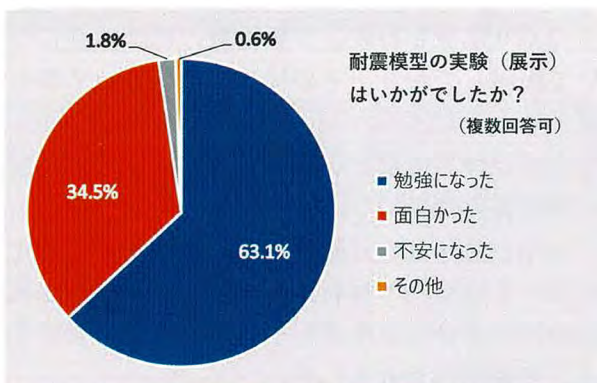
●Q：防災のための備え(複数回答可)

最多の『食糧の備蓄』は、実際には8割近い方が備えているということでした。こうしたイベントに来場するだけあって、皆それなりに何がしかの対策を講じており、全く何もしていないという方は1名だけでした。



●Q：耐震模型実験の感想(複数回答可)

こちらも約8割の方が『勉強になった』と回答されました。耐震の仕組みが分かりやすく学べた様子で、自由記述での感想にもそのことがよく表れていました。子どもたちには概ね好評でしたが、少し怖さを感じてしまった子もいたようでした。



●ぼうさいこくたいの感想

会場全体、あるいは我々のブースに関する感想を自由記述式で記載していただき、83名の方々からご回答いただきました。

全体的に、模型を使って体験・体感することで耐震の必要性を実感できたことについての感想が多く、大人からお子様まで幅広い年代の方々に楽しく学んでいただけたことは、とても良かったと思いました。

酷暑できつかったけれど、アンケート結果から、このイベントに参加した意義があったことを改めて感じたところです。

(深谷)